

**国公立大 前後期合格発表**

今春入試における国公立大学前期日程・中後期日程試験の合格発表が行われました。55期生は最後まで粘りを見せて健闘し、数多くの生徒が栄冠を手にかけています。2月25日(火)26日(水)に行われた前期日程試験の合格発表は、3月1日(日)～10日(火)にかけてありました。55期生は、東京外国語大学1名、九州大学5名、広島大学6名、熊本大学9名、鹿児島大学68名、長崎大学5名、宮崎大学6名など、推薦入試とあわせて、国公立大学の総計で144名が合格しました。

また、3月8日(日)に行われた中期日程試験、12日(木)に行われた後期日程試験の合格発表が、3月20日(金)から始まりました。中期日程では下関市立大学3名、後期日程では鹿児島大学3名等、合計で16名が合格し、今年度国公立大学合格者数は160名となりました。55期生の最終的な合格状況は、新年度4月発行の『進路の手引き』等で改めてお伝えする予定です。

合格を勝ち取った55期生がいる一方で、涙を呑んだ55期生も少なからずいます。56期・57期の皆さんが来年、再来年の受験で合格を勝ち取るには、学力向上のための地道で弛まぬ努力が必要です。新年度を迎えるにあたり、自らの進路希望実現に向けて誓いを立てましょう。

55期生の合格体験談

55期生から、後輩に向けてのメッセージが届きました。受験生としてどのようにして勉強時間を確保したのか、どのようにしてモチベーションを維持したのか、どのようなペースで勉強したのかなど、在校生が聞きたかった内容を、実体験に基づいて具体的に教えてくれました。詳細は次年度発行の『進路の手引き』に掲載します。

忙しい時間を割いて原稿を書いてくださった先輩方に、まずは感謝しましょう。そして先輩方からのメッセージを自分のこととし、希望進路実現に役立てましょう。

「2年生」になるために

まもなく57期生は2年生になります。4月からの授業は、1年次の学習の基礎基本が身についているという前提で授業が進みます。4月に躓(つまづ)くと1年間苦勞することになります。それどころか、共通テストの英数国で求められる力の大半は1年次の学習内容なので、受験にまで影響を及ぼすことになります。

そうならないためには、春休みの課題に取り組みなが

ら、この1年間の学習内容に抜け落ちている点がないかを確認し、必要に応じて補うことが必要です。特に、用語や公式、単語力などについては高い意識を持って復習に取り組みましょう。なお、入試問題のうち約50%が基本問題、約30%が応用問題、約20%が難問と言われています。受験の可否を分けるのは難問よりも基本問題です。2年後を見据えて、早い段階で「圧倒的な基礎力」を身につけましょう。

「受験生」になるために

56期生は、受験イヤーに突入して間もなく3ヶ月が経とうとしています。灘中・高等学校の英語科の木村先生の記事の一部を紹介します。

① 大学で何を学び、どんな自分になるのか。

大切なのは、自分は何がしたいのか、どんなことならば人生を楽しめるのかを考えることです。

② 何が欠けていて、いつまでにそれを埋めるか。

科目ごとに分析し、自分に欠けている部分を書き出すなどして可視化し、(中略)愚直にそれをつぶしていくことが大切です。

③ 「何時間勉強したか」より「何回繰り返したか」。

人間はそもそも忘れる生き物なのです。(中略)我々の脳は、何度も入ってくる情報を「これは生死に関係のあることかも」と誤解することが脳科学で分かっています。(中略)脳に刷り込む勉強をすることです。

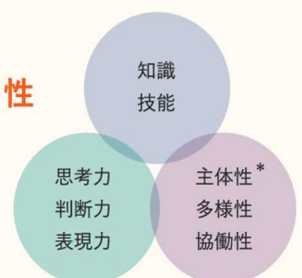
全てが「なるほど」と思わせる大切な内容です。受験までの時間をより充実させ、密度を濃くするためにも上記の①～③を強く意識しましょう。

再確認

今年度の最後にもう一度、新入試のイメージを確認し、4月からの学習に備えましょう。

大学入試改革の方向性

大学入試について
「学力の三要素」を
多面的・総合的に評価する



【出典：https://www.kawai-juku.ac.jp】

足の裏

1 学年主任 小畑 是也

仏教の禅の修行に公案というものがあるのを皆さんは知っているでしょうか。

公案とは座禅を行う修行僧に出される課題・問題のことです。これがまた難問ばかりなのです。例えば、「両手で叩くとパンッと音がするが、片手で叩くどんな音がするか？」とかなんですが、答えられますか？ 俗に禅問答という言葉がありますが、常識では考えられない問題ばかりなのです。修行僧は師から公案をもらい、座禅をしながらひたすらその問題を考えるわけです。

いろいろな公案があるのですが、私が心惹かれた公案を1つ紹介します。それは、「49の曲がり角を曲がり、細い山道を真っすぐに通る」という公案です。49も曲がり角を曲がれば真っすぐには通れませんよね。じゃあどういう意味なのでしょう？ 皆さんはこの公案の意味するところがわかるのでしょうか？ ちなみにある高僧は、「この公案は頭で考えてはいけない。足の裏で考えろ」とアドバイスをしています。「はあっ。足の裏？ ますますわからんわ…。」と思う人も多いかもしれません。

話は少し変わりますが、坂村真民という詩人が「足の裏」という詩を書いています。短い詩ですが、先ほどの公案を解くヒントが隠されているので紹介しましょう。

尊いのは頭ではなく、手でなく、足の裏である / 額から光が出る
まだまだいかん / 本当に偉い人は足の裏から光が出る

という詩です。この詩の解釈も難しいですね。ちなみに「足の裏から光が出る」とはどういうことなのでしょう？ 皆さんも少し考えてみてほしいのです。

さて、3年生の受験の結果が出ました。見事、志望校の合格通知を手にした人もいれば、残念ながら涙を流した人もたくさんいました。では、なぜ涙を流したのか…。いろいろな理由はあったとは思いますが、私が思う一番の理由は「受験勉強のスタートが遅かった」ということです。スタートが遅く、猛烈に追いかけるが、ゴール直前ギリギリで追いつけない。これが私の鹿児島中央高校生に対する印象です。もう少し早くスマホと決別して本気で受験勉強を始めていれば…。残念ながらそのような生徒が今年もたくさんいました。

受験を山登りに例えると、決められた期日までに目標の山頂に立たないといけません。全国の高校生は一斉に山の頂上を目指して登り始めているのに、いまだ山のふもと辺りでスマホをいじり、のんびりしている人。その気になれば、あっという間に頂上へ瞬間移動できると勘違いしている人。そのような人が多かった気がします。そして気がついてみると期日までに頂上にたどり着けていない。涙を流してしまう。とても残念なことです。「まだ受験まで2年もあるし…。」その慢心こそがとても危険なのです。

さて、先程の公案の答えですが、皆さんはわかりますか？ 「49の曲がり角を曲がり、細い山道を真っすぐに通る」。この公案の正確な答えを私自身は知りません。しかし、あえて解釈すればこういうことなのでしょう。「大切なのは毎日の一步一步。一步一步、休まずに確実に歩を進めていけば、たとえ49の曲がり角がある細い険しい困難な山道でも、目標に向かって真っすぐに歩いて行ける。その時、その人の足の裏は傷だらけで、豆だらけでぼろぼろかもしれない。しかし、その足の裏はとても輝いているし、光が出ているのだ」。この公案はそのようなことを教えてくれているような気がするのです。

「本当に偉い人は足の裏から光が出る」。1年生の皆さんに尋ねます。

今、皆さんの足の裏からは光が出ていますか？

写真から思うこと

2 学年 高山 正教

職員室から出てくると…

職員室から用事を済ませ中央階段の方へ5～6歩行くと、ハッと目が合う人がいます。ご存じでしょうか？村田新八さんの肖像写真です。キリッとしているその表情のせいかな、思いがけず会釈をしそうになりますよね。この写真は、岩倉使節団として海外へ行った後のパリ留学中に撮られた写真とのこと。130年以上も前に撮られた村田新八さんの眩しい眼光とその視線から、皆さんは何を感じますか？当時の村田新八さんの胸の内を想像してみた時に、ある過去の経験を思い出しました。

Q. なぜ地理を学ぶのか

私は現在、地理を担当しています。大学でも地理学を学んでいましたが、ある時の講義で「なぜ地理を学ぶのか」と先生が質問されました。皆さんなら何と答えるでしょうか。ある学生は「地球が大きくて丸いから！」と答えましたが、さてその心は？その学生曰く「隣の芝生は青く見えるのと同じように、他の地域が気になるから。ましてや地球は丸くて遠くが隠れてしまうから！」と。なるほど、地球は丸いが故に自然的にも社会的にもバラエティに富んだ地域になっていますが、今まで見たことのない世界に人は魅力を感じるものだよなあ、と納得させられました。

村田新八さんが岩倉使節団で海外へ行き、観たり聞いたりなどして五感で感じとったものは、とても刺激的な世界であっただろうと思います。そこで学んだことが、いきいきとした知識・経験になって培われていったことは、その写真の表情からは想像に難くありません。事実、村田新八さんは岩倉使節団から離れ、自費でのパリ留学を願い出ているそうです。あくまで自分の想像ではありますが、学んでいることがある種の楽しみとなっていたのかもしれない。

皆さんはどのようなモチベーションで勉強していますか？

ところで皆さん、自宅での学習は進んでいますか？ある講演会では、勉強は基礎練習であり、実践や応用するのは社会に出たあとで行われるものと教わりました。基礎練習というのは地味で面白くありませんが、実践や応用の場面になると基礎がとても大事であるという経験は皆さんも実感できると思います。だから大人達は盛んに勉強しなさいと言うのでしょうか。やはり親の意見は後で効いてくるようです。

高校での勉強が楽しいということは少ないかもしれませんが、その中に一つでも多く前向きになれるものを見つけてほしいです。というのは、学んだことがどんな形であれ、いきてくる場面があると思うからです。冒頭に話した村田新八さんの写真の表情は、学んでいることが即実践できる確信が背景にあり、きっと役に立つという自信の表れかもしれません。

皆さんはどのようなモチベーションで勉強していますか？教科書や問題集をめくる時にどんな気持ちですか？災害つづきの日本を救ってくれるような、未来の日本を導いてくれるような、ノーベル賞を受賞するくらい人類に貢献するような…教科書や問題集の1ページがそんな人材が出てきてくれる糧になっていることを期待しています。